

# 週刊大貫のり夫

## 市政ファイル No.362



日本共産党横浜市会議員大貫のり夫議会報告

発行日：2012年10月17日(水)

事務所：〒227-0061 横浜市青葉区桜台29-6

### 2011年度決算特別委員会報告

#### 学童クラブ、賃借施設の耐震化に対策を

横浜市では、保育所入所希望者の増加に伴い、保育所建設を積極的に取り組んできた結果、保育所卒園の小学1年生が増え、放課後の子どもたちの居場所である学童保育の必要性も高まり、5年間で市の補助対象となる学童クラブは23か所も増えています。

子ども青少年局の審査で、日本共産党のあらき議員は、学童クラブで困っているのは高い保育料、施設の確保、賃借施設の耐震化だと指摘。平均1万5900円の保育料の負担軽減を図り、施設の確保を市の責任で行うよう求めました。

こども青少年局長は、2015年度施行予定のこども子育て支援関連3法の枠組みなどを踏まえて、放課後施策のあり方を検討すると答えました。

また、あらき議員は、学童施設の耐震化について自己所有の場合は修繕や耐震診断の補助を行っているが、賃借の場合はどうするのかと質問。

(2面に続く)



Twitter facebook ご覧ください

## 災害時に備えて、地下鉄に車掌の配置を

交通局の審査で、日本共産党の白井まさ子議員は、地下鉄での災害時緊急対応について、質問しました。

白井議員は、地下鉄について、地震、津波、落雷などの災害時に、現在のワンマン運転では乗客の立場からするとたいへん不安あるため、車掌を配置して避難誘導體制の向上が図られるべきではないかと質しました。

総務部長は、現在の運行規模のもとで車掌を配置した場合、車掌等職員約170名、人件費約15億円が必要となると説明。

白井議員は、乗客の安全確保を考えれば必要な人員と額であり、市民の理解は得られると述べました。

交通局長は、非常時に適切な対応ができるよう職員に対して繰り返し



返し教育訓練・研修等を実施しており、安全対策に万全を期しており、ワンマン運転を継続していきたいと答弁。

白井議員は、「列車の中には運転手ひとり」であり、「線路伝いに駅まで歩く場合には、高電圧に接触することがないか、どれくらい明るいのか、たいへん気になる」と危険性について述べました。さらに、地下26メートルの高島町駅で地上まで出るには8階建てのビルを歩いて登るのに相当するとして、「災害緊急時に全員無事に避難するためには、職員の誘導が決定的になる。ぜひ車掌の配置を検討いただきたい」と要求しました。



(1面より)

こども青少年局長は、賃貸の場合は修繕の責任は大家側にあるため、問題のある場合には移転を進めるしかないと答弁。あらかし議員が「だったら移転費用を出すのか」と問いただしたところ、局長は「そうしたことも検討課題だと認識している」と答えました。

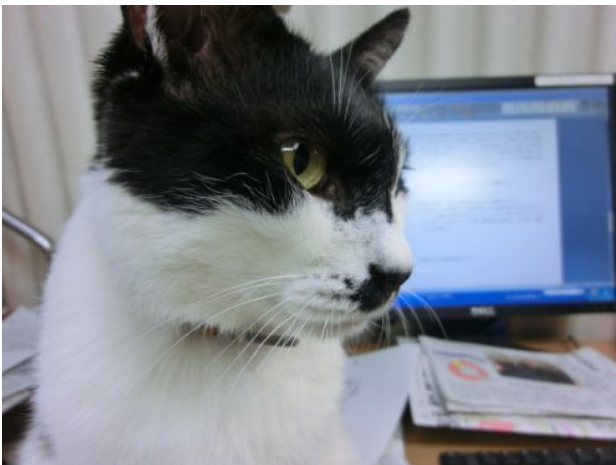
投稿 芝崎文仁

## 横浜市教育委員会事務局の横暴さ

審議会を無視、事務方が勝手に答申

中田前市長任命の教育委員は、2009年には、間違いの多い、盗作もある自由社（「新しい歴史教科書をつくる会」系）教科書が無記名投票という教科書採択の公開性に反する方式で採択し、青葉区を含む8区の中学2年生が使用させられています。（1名の委員を除く）。次いで2011年には、中田前市長任命の4人の委員が、林市長任命の2名の委員の意見を切り捨てて、育鵬社（自由社と同様「つくる会」系）の教科書（歴史・公民）を採択し、全市の1年生が歴史を3年生が公民を使用させられています。全国の採択数4%の内の60%が横浜市という異常な採択状況です。これは教育委員の責任であり、特に教育委員会を指導していた今田教育委員長長の責任は大です。

ところで、今年の高教科書の採択でも、大問題が起きました。それは、何の権限も有しない職員が校長からの報告を改ざんしたために答申が歪められたということです。高教科書の採択は各高校の校長が所属教員の意見をまとめて教科書取扱審議会に報告します。取扱審議会はその報告を得て、その報告に基づいた答申を作成し、教育委員会に提出します。その答申によって教育委員会が採択してきました。したがって各校の希望はそのまま生かされてきたのです。しかし、今回は市教委の事務方の職員が各校長からの広告を改ざんし、取扱審議会に提出したため、取扱審議会が例年のとおり作成した答申には高校側の希望を切り捨てるものとなっているのです。この責任は重大です。



## 秋になりました

市政ファイルの原稿を書いていたら、いつもは名前を読んでも知らん顔のクウ助(左写真)が、突然、机の上に飛び乗ってきた。なんとなく憂い顔をしていた。

夏の間は、涼しいところを見つけて長々と寝てばかりしていたのだが。いよいよ本格的な秋ということか。



## 2012平和のつどい

# 蓮池 透さん、東電を厳しく批判

ヒロシマ・ナガサキ67年、米軍ジェット機墜落事件35年「2012平和のつどい」が14日、あざみ野の山内地区センターで行われ、会場は200人を超す参加者で満杯になりました。

メイン講師は元東京電力社員で原子燃料サイクル部長だった蓮池透さん。蓮池さんは元「拉致被害者家族会」事務局長でもあります。東電では32年間働き、核のゴミ処理を研究してきました。東電勤めの後半は、核のゴミである使用済み核燃料の最終処分地は、全く見通しがなく、これ以上、負の遺産を子孫に残してはいけなないと考えていたと話しました。

福島第一原発事故については、東電は当事者としての意識が希薄で、むしろ被害者意識を持ち、すべて想定外の津波が原因と考えていると断定。国費投入と電力料金



講演する蓮池透さん＝14日、山内地区センター

値上げで東電を延命存続させるだけでは意味がなく、原発ゼロの立場に立ち、再生可能エネルギーによる抜本的電力改革が必要と語りました。

つどいでは、米軍ジェット機墜落事件被害者訴訟原告の椎葉寅生さんの話や、「青い空」を作曲された作曲家大西進さんの話、金子みすゞを歌う会の皆さんによる合唱などで、盛り上がりました。



**ミジソコの独り言** スポーツの秋。学校の運動会は初夏にやる所も多いが、地域や団体の運動会は秋が断然多い。運動会発祥のヨーロッパでは特定のスポーツ毎の大会に発展したそうで、総合体育祭のような運動会は日本独特の文化らしい。チーム戦となると結構熱くなり、人柄が現れるような気がする。(M)